



福岡県におけるジェネリック医薬品 使用促進のための取組み

福岡県保健医療介護部薬務課

1 ジェネリック医薬品を取り巻く福岡県の状況

- 急速な少子高齢化が進む中、我が国の公的医療保険制度は様々な問題に直面しています。福岡県では県民1人当たりの医療費が全国平均に比べて高く、特に高齢者の医療費は平成14年度から全国第1位の状況が続いています。
- 福岡県では平成19年8月に全国に先駆けて「福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会」^{*}を設置し、医療現場、保険者、販売業者等からの貴重なご意見をいただきながらジェネリック医薬品を普及させるための課題と解決策を議論してきています。
- 本県での取組みの特徴としては、ジェネリック医薬品に対する認知度の低さや不信感により普及が進んでいなかった平成19年当時、国よりも先にこの課題への取組みを開始し、課題を明確にするための的確な調査をした上で、ジェネリック医薬品を使用しやすい「環境整備」に徹した方策を行ってきたことが挙げられます。
- 県民へのアンケート結果を踏まえて県民のジェネリック医薬品に対する認知度、理解度を上げるためのポスター、リーフレットや差額通知の送付等を実施してきました。また、医療関係者や卸売販売業者への調査を踏まえて、ジェネリック医薬品採用マニュアルをはじめとするジェネリック医薬品に関する情報提供をすることで医療関係者に対する普及啓発をしてきました。
- その結果、平成19年度のジェネリック医薬品普及率（旧指標（数量シェア））19.0%から、平成23年度は31.6%、平成24年度は32.6%となり、ジェネリック医薬品の使用促進に着実な進捗が見られ、第1期福岡県医療費適正化計画において平成24年度までに30%以上とした目標を達成しました。第2期福岡県医療費適正化計画においては、平成29年度までに40%以上にするという目標を設定していたところ、平成29年度には43.4%となり目標を達成しました。
- 現在は、第3期福岡県医療費適正化計画において、令和5（2023）年度までに普及率（新指標（数量シェア））を80%以上にするという目標を設定しています。

※令和2年5月現在の福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会構成委員（()内は人数）

有識者（1）、県医師会（1）、県薬剤師会（1）、消費者代表（1）、医薬品製造・販売団体（3）、地域薬剤師会（3）、地域基幹病院（4）、保険者、審査支払機関（6）



2 福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会のこれまでの取り組みについて

(1) 課題の明確化及び普及状況の調査

1. 県民に対する調査（県政モニターアンケート）

- ・ジェネリック医薬品を実際に使用する患者側の立場から、ジェネリック医薬品の認知度等を把握することを目的として、平成 19、22、24、26、28、30 年度に県政モニターアンケートを実施しました。（詳細は P10 の 3（1））

2. 医療関係者に対する調査（医療関係者向け調査）

- ・平成 18 年度から平成 26 年度にかけて、病院、薬局にそれぞれ 5 回ずつジェネリック医薬品の採用状況及び採用に対する姿勢について調査を行いました。

3. 卸売販売業者に対する調査（流通実態調査）

- ・平成 19 年より、福岡県内のジェネリック医薬品の流通実態を把握するべく、卸売販売業者を対象に、医療機関及び保険薬局に販売されたジェネリック医薬品の流通実態についての調査を年 2 回実施しています。

調査対象

- 福岡県医薬品卸業協会（6 社）
- 福岡県ジェネリック医薬品販社協会（7 社）
- 直販メーカー等（2 社）
- その他

調査方法

厚生労働省の方法に準ずる

- 「ジェネリック医薬品のない先発医薬品（新薬）」、「ジェネリック医薬品のある先発医薬品」、「その他の医薬品（局方品、漢方エキス剤等）」、「ジェネリック医薬品」で区分（新指標での普及率を算出するため平成 27 年度調査より区分を変更）
- 数量：最小数量（1 錠、1 カプセル、1 筒、1 本等）を 1 単位として集計

(2) 普及啓発

1. 県民向け

○ポスター、リーフレットの作成配布

- ・平成 19 年度に福岡県、（公社）福岡県医師会、（公社）福岡県薬剤師会の三者連名で県民向けポスター及びリーフレット作成し、医療機関、薬局等に配布しました。その後、平成 21、24、26、28 年度に内容を改訂しました。平成 28 年度作成の際には、ジェネリック医薬品の使用が保険医療財政の節約や優れた保険医療制度の次世代への継承に貢献できることを訴える、啓発効果の高いものとなりました。



○差額通知

- ・平成 21 年度に、久留米市をモデル地区として薬剤費削減可能額通知事業を開始しました。平成 23 年度からは、9 市町（飯塚市、大野城市、春日市、嘉麻市、久留米市、太宰府市、筑紫野市、那珂川町、桂川町）及び福岡県後期高齢者医療広域連合に拡大し、現在は県内すべての市町村で実施されています。

○出前講座

- ・福岡県では、県の取り組みなどについて、県職員が県民に対して説明する「ふくおか県政出前講座」を実施しています。平成 21 年 4 月よりジェネリック医薬品についての講座もスタートし、現在まで延べ 72 回、2,148 人に対して実施しています。

2. 医療関係者向け

○福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアル

- ・平成 19 年度に、医療機関、保険薬局におけるジェネリック医薬品の採用のポイントをまとめた「福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアル」を作成し、県ホームページで公表するとともに、医療機関及び保険薬局に配布しました。

○福岡県基幹病院採用ジェネリック医薬品リスト

- ・県内の基幹病院において採用しているジェネリック医薬品のリスト「福岡県基幹病院採用ジェネリック医薬品リスト」を平成 21 年度より定期的に作成し、県ホームページで公表するとともに、医療機関及び保険薬局配布しています。令和元年度には医薬品のリストに加え、基幹病院における医薬品採用に関する重要度アンケートの結果を加えた資料も作成し、配布等行いました。（詳細は P11 の 3（2））

○福岡県ジェネリック医薬品使用量上位品目リスト

- ・平成 30 年度に、レセプトデータから、医薬品の使用量を成分・規格・剤形ごとに集計し、県内の使用量上位 100 種類をまとめた「福岡県ジェネリック医薬品使用量上位品目リスト」を作成し、県ホームページで公表しました。

○福岡県ジェネリック医薬品ガイドブック

- ・令和元年度には、上記リスト等、ジェネリック医薬品への置き換えの際に参考になる情報を記載した「福岡県ジェネリック医薬品ガイドブック」を作成し、医療機関及び保険薬局に配布しました。（詳細は P14 の 3（3））

○医療関係者向け研修

- ・平成 20 ～ 24 年度にかけて、病院、診療所、薬局に勤務する医療関係者への研修を実施しました。（詳細は P15 の 3（4））



3 個別事業の詳細

(1) 県政モニターアンケート（課題の明確化及び普及状況の調査（県民））

- 県政モニターアンケートは県政モニターとして登録いただいた方を対象にアンケートをとるものであり、ジェネリック医薬品の関係では過去5回（平成19、22、24、26、28、30年度）実施しています。
- 経時的変動の確認、診療報酬改定前後での変化の確認、新たな課題の掘り起こしを目的としてアンケートを実施しています。
- 直近の平成30年度の結果について一部紹介します。

調査方法

対象：福岡県 県政モニター（400名）（平成28年度までは300名）

調査方法：郵送又は電子申請フォーム

調査期間：平成30年11月14日～11月25日

結果

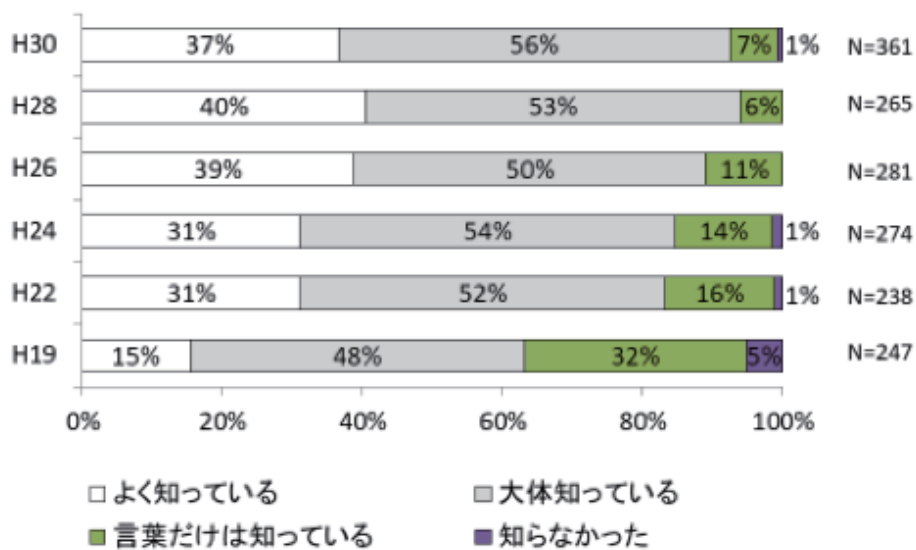
361名が回答（回答率 90.3%）

※平成19、22、24、26、28年度実施の調査結果を参考までに並記した。

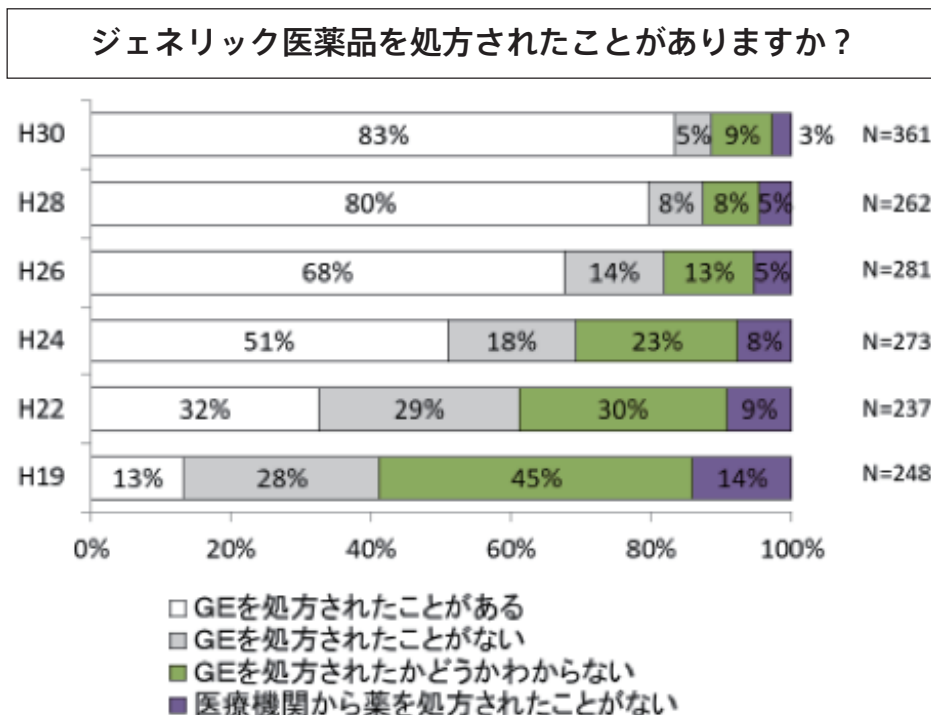
ただし、県政モニターの構成員が異なるので単純な比較はできない。

- ・「ジェネリック医薬品を知っていますか」という問いに対し、平成19年度は「よく知っている」、「大体知っている」で63%でしたが認知度は年々向上しており、平成28年度には同93%となりました。

ジェネリック医薬品を知っていますか？



・「ジェネリック医薬品を処方されたことがありますか？」については、処方されたことがあると回答された方の割合が大幅に上昇しており、平成30年度には83%になりました。



(2) 福岡県基幹病院採用ジェネリック医薬品リスト（普及啓発（医療関係者））

○福岡県内のそれぞれの地域において中核病院として機能している本協議会のモデル病院の採用ジェネリック医薬品リストを公開し、他の病院がジェネリック医薬品を採用する際の参考としていただく目的で平成21年4月、平成24年11月、平成27年3月及び令和2年3月にモデル病院採用ジェネリック医薬品リスト作成し、県内の医療機関及び薬局へ配布をしてきました。令和2年3月には基幹病院における医薬品採用に関する重要度アンケートを併せて実施したので、その結果について一部紹介します。

調査方法

対象：福岡県内の基幹病院（19病院）

調査方法：メールにてアンケート票を送付して回収

調査期間：令和2年3月4日～3月12日

結果

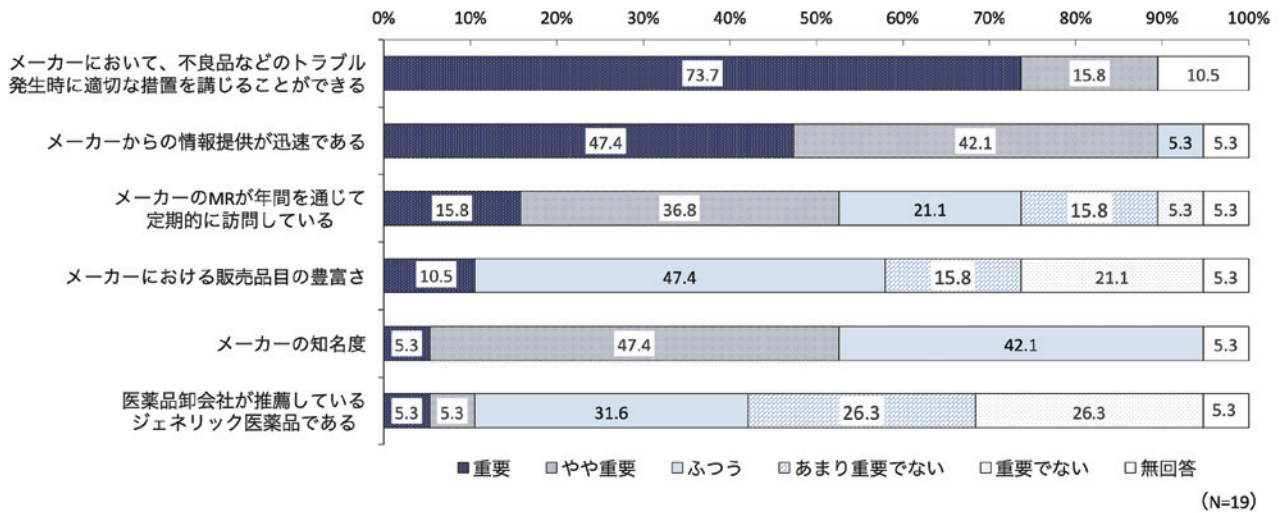
19病院が回答（回答率 100%）

・ジェネリック医薬品メーカーに対して「重要」とすることの上位は、「メーカーにおいて、不良品などのトラブル発生時に適切な措置を講じることができる」が73.7%（14病院）、「メーカーからの情報提供が迅速である」が47.4%（9病院）、「メーカーのMRが年間を通じて定期的に訪問している」が15.8%（3病院）となりました。「重要」と「やや重要」を足し合わせた結果



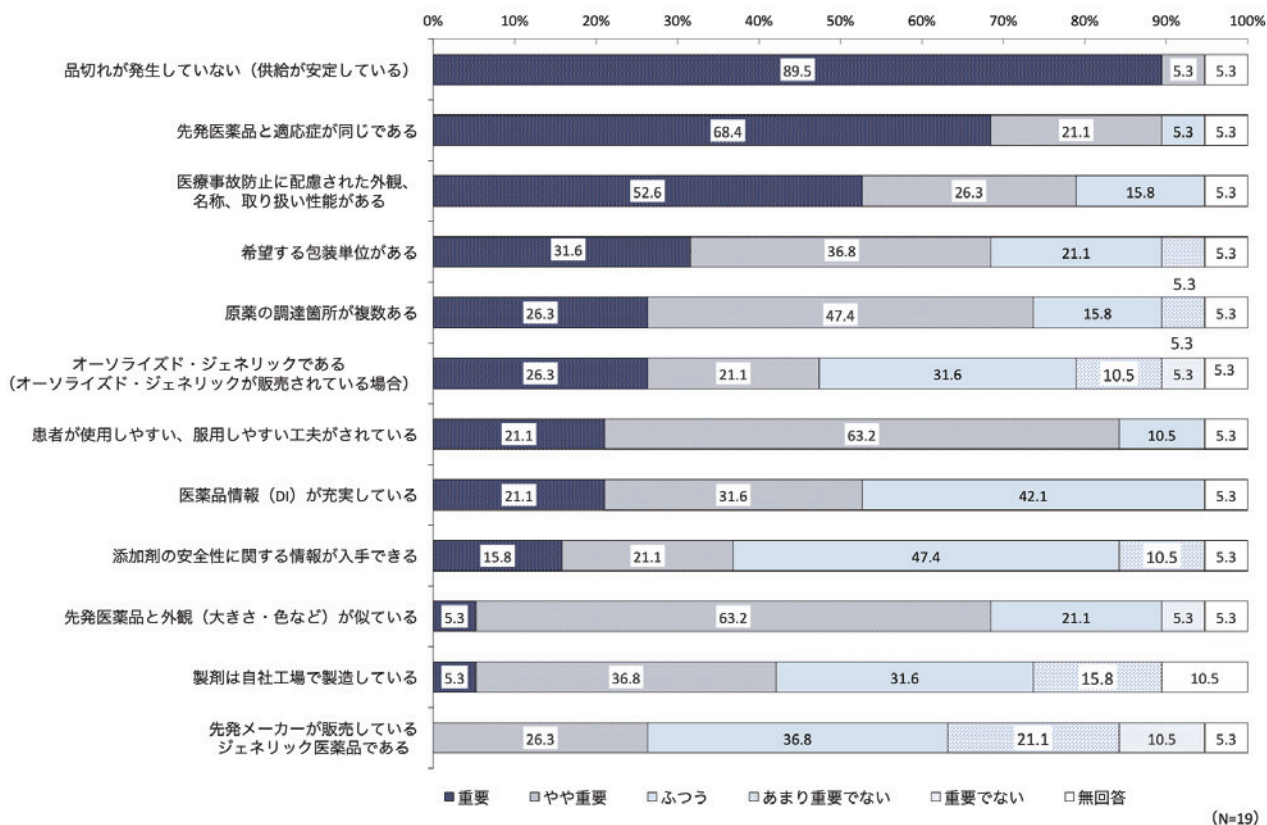
では、「メーカーにおいて、不良品などのトラブル発生時に適切な措置を講じることができる」と「メーカーからの情報提供が迅速である」が89.5%（17病院）、「メーカーのMRが年間を通じて定期的に訪問している」と「メーカーの知名度」が52.6%（10病院）で上位となっていました。

ジェネリック医薬品メーカーに対して重視すること



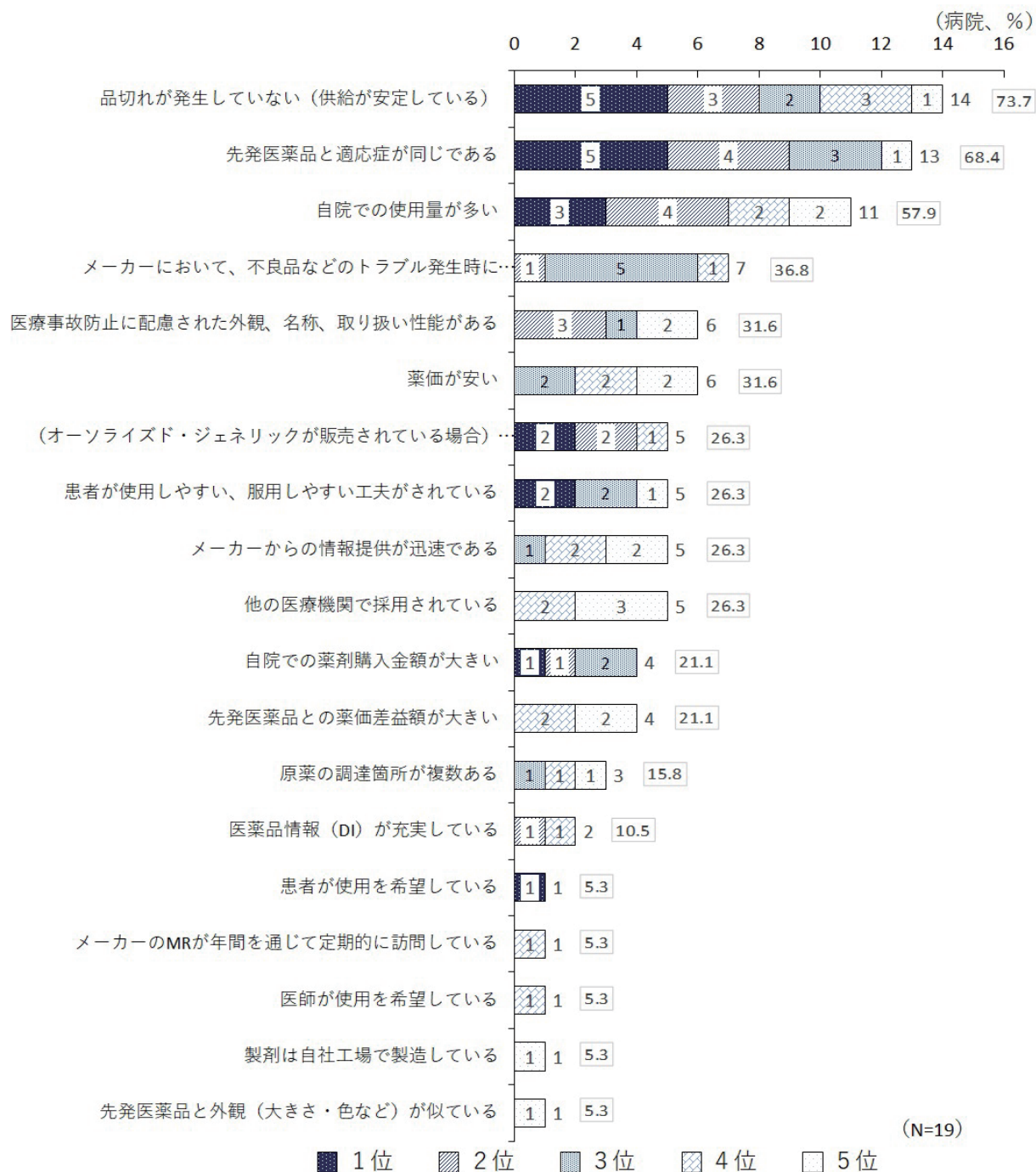
・ジェネリック医薬品に対して「重要」とすることの上位は、「品切れが発生していない（供給が安定している）」が89.5%（17病院）、「先発医薬品と適応症が同じである」が68.4%（13病院）、「医療事故防止に配慮された外観、名称、取り扱い性能がある」が52.6%（10病院）となりました。「重要」と「やや重要」を足し合わせた結果では、「品切れが発生していない（供給が安定している）」が94.7%（18病院）、「先発医薬品と適応症が同じである」が89.5%（17病院）、「患者が使用しやすい、服用しやすい工夫がされている」が84.2%（16病院）、「医療事故防止に配慮された外観、名称、取り扱い性能がある」が78.9%（15病院）、「原薬の調達箇所が複数ある」が73.7%（14病院）、「希望する包装単位がある」と「先発医薬品と外観（大きさ・色など）が似ている」が68.4%（13病院）、「医薬品情報（DI）が充実している」が52.6%（10病院）で半数を超える結果となりました。

ジェネリック医薬品対して重視すること



・ジェネリック医薬品を採用する際に重視することについて、上位5位を選択してもらったところ、1位から5位までの合計が多かったのは、「品切れが発生していない (供給が安定している)」が73.7% (14 病院)、「先発医薬品と適応症が同じである」が68.4% (13 病院)、「自院での使用量が多い」が57.9% (11 病院) となりました。いずれの項目もジェネリック医薬品に対して重視することやジェネリック医薬品の経済性で重視することにおいても上位となっていました。

ジェネリック医薬品を採用する際に重視すること上位5位



(3) 福岡県ジェネリック医薬品ガイドブック (普及啓発 (医療関係者))

○令和元年度は、ジェネリック医薬品への置換えによる医療費適正化効果等の情報を提供し、医師や薬剤師にジェネリック医薬品への使用促進の意義・必要性を再認識していただくとともに、ジェネリック医薬品への置換えの際に参考となる情報を提供し、医師や薬剤師がジェネリック医薬品を処方 (調剤) する際の一助となるように「福岡県ジェネリック医薬品ガイドブック」を作成し、県内の医療機関及び薬局へ配布しました。

<参考>福岡県ジェネリック医薬品ガイドブック



(表紙)



(裏表紙)

(4) 医療関係者向け研修（普及啓発（医療関係者））

○県民のジェネリック医薬品への正しい理解と同様に、医師・薬剤師等医療関係者がジェネリック医薬品への理解を深めることも重要であるため、平成20年度から平成24年度まで、種々の医療従事者を対象に事業を実施しました。

(i) 病院管理者向け研修（所属及び肩書については当時のもの。以下同じ。）

○病院におけるジェネリック医薬品採用の可否に大きな影響を持つ病院長、副院長、事務長向け研修を(社)福岡県医師会及び福岡県の主催で実施しました。講師として、藤原淳氏(中央社会保険医療協議会委員・(社)日本医師会常任理事)、増原慶社氏(聖マリアンナ医科大学病院薬剤部長)を招き、最近の医療保険の動向や、実際の使用経験をもとにしたジェネリック医薬品の詳細について講演して頂きました。

(ii) 病院薬剤部長研修

○ジェネリック医薬品採用については、病院内で薬剤部が主体となって積極的に取り組むことが重要であるので、病院薬剤部長、薬剤師を対象とした研修を福岡県病院薬剤師会及び福岡県の主催で実施しました。基調講演には、講師として、有山良一氏(横浜市立大学附属病院薬剤部薬剤部長)を招き、横浜市立大学附属病院の先進事例に基づいたジェネリック医薬品普及の取り組みについて講演頂きました。また、その他の講演では、本協議会のモデル病院での取り組み等が紹介されました。



(iii) 薬局管理薬剤師研修

○保険薬局の管理薬剤師、薬剤師を対象とした研修会を福岡県主催、(社)福岡県薬剤師会後援で実施しました。基調講演には、講師として、小林郁夫氏(小林法律事務所/弁護士・薬剤師)を招き、薬剤師を取り巻く法律問題について講演頂きました。その他の講演では、医師の立場からジェネリック医薬品を見た際の所感、薬局での患者対応についても紹介されました。また、田宮憲一氏(厚生労働省保険局医療課 課長補佐)には、ジェネリック医薬品の使用促進と薬局薬剤師への期待についても講演頂きました。

(iv) 地域での診療所、調剤薬局研修

○平成21年度からは、地域の医療を担う医療関係者向けの研修会について、地域の薬剤師会、病院薬剤師会と連携して実施しました。地域開催される医療関係者の研修会等に、積極的に出向き、ジェネリック医薬品への理解を深めることができるよう講演を行いました。平成23、24年度には地域協議会事業の中で、地域における薬局薬剤師等を対象として、ジェネリック医薬品への理解を深め、地域レベルでのジェネリック医薬品の使用促進に協力してもらうための研修を実施しました。

4 今後の展開について

○令和元年度は県内全域を対象に事業を実施しましたが、今後は、人口が多く県平均に大きく影響する地区に重点をおいて取組を実施していく予定です。

※「福岡県ジェネリック医薬品ガイドブック」をはじめ、福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会で作成した参考資料は下記 URL から入手可能です。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/generic-sankoshiryo.html>

<参考>現在配布している患者向けリーフレット（3つ折り）

○表面

お問い合わせ

《福岡県保健医療介護部薬務課》

☎092-643-3285

薬の使用方法や取り扱い方などに関してご質問がある場合は、こちらにお電話ください。

公益社団法人福岡県薬剤師会 薬事情報センター
《くすりなんでもテレホン》

☎092-271-1585

《政府インターネットテレビ》

知りたいニッポン ジェネリック 検索

http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg12489.html

ジェネリック医薬品について動画でわかりやすく説明しています。

《ジェネリック医薬品希望カードの使い方》

- ①おもて面に氏名をご記入ください。
- ②キリトリ線に沿って切り取ってください。
- ③半分を折り、こちらの面をのり等で貼らせてください。

↑ここを谷折りしてください。

ジェネリック医薬品を選ぶことは社会貢献でもある、ということをご存知でしょうか。服用しているお薬をジェネリック医薬品に替えると、窓口で支払う「自己負担」を減らせるだけでなく、「税金」や「保険料」でまかなわれているこの国の医療費を節約することにもなるのです。

急速な高齢化に伴い、増え続ける日本の医療費。このままでは、現代の優れた医療保険制度を次の世代に継承していくことが困難な状況です。子どもたちが安心して暮らせる未来を残すこと、それは、私たちに課せられた責任でもあります。

ジェネリック医薬品という選択は、子どもたちの未来を想う「やさしい節約」なのです。

未来に残したいものがある。
だから私は、ジェネリック。

○まずは、医師・薬剤師にご相談ください。

福岡県

○中面

福岡県では、ジェネリック医薬品の普及を推進しています。

安いだけではありません！ ジェネリック医薬品は、未来を想う「やさしい節約」なのです。

1 ジェネリック医薬品とは？

ジェネリック医薬品は、先に開発された薬（先発医薬品）の特許が切れた後に発売される医薬品で、先発医薬品と同じ有効成分・同じ効き目として、国が承認したものです。

▲社（先発医薬品）

研究開発 → 特許期間（20～25年） → 出展 → 特許期間終了

▲社（ジェネリック医薬品）

研究開発 → 研究開発 → 研究開発 → 発売

▲社（ジェネリック医薬品）

研究開発 → 研究開発 → 研究開発 → 発売

同じ有効成分を同じ量使って開発

（ここがポイント）
開発コストを抑制できるので販売価格を安くできます。

3 どんなメリットがあるの？

- 価格が先発医薬品と比較して安いため、支払う薬代が安くなります。
- 味やにおい、大きさを改良して飲みやすしたり、容器を改良して使いやすしたりするなど、独自の工夫をした製品もあります。

飲みやすく改良

錠剤を小さくして飲みこみやすく

コーティングなどで苦味を少なく

5 希望する時はどうすればいいの？

- ジェネリック医薬品を希望される際は、まずは医師・薬剤師にご相談ください。
- 希望を医師・薬剤師にお伝えする際は、下の「ジェネリック医薬品希望カード」を病院や薬局の窓口で提示するなど、ご活用ください。

4 「やさしい節約」とは？

薬代は患者さんの自己負担だけでなく、国の負担などでもまかなわれているため、ジェネリック医薬品を選ぶことで、この国の医療費を節約できます。現代の優れた医療保険制度を次の世代に引き継ぐためには、増え続けているこの国の医療費を節約していくことが大切です。また、節約した医療費は、新薬の開発などに有効活用することもできます。

国の医療費を節約できます

先発医薬品

ジェネリック医薬品

→

節約

未来のためのやさしい節約

ジェネリック医薬品希望カード

私は、ジェネリック医薬品を希望します。